

## 本を手にとって考えるワークショップ：

### 医療・健康情報サービスに役立つ本を考える

ねらい：

それぞれの病気に関して特定の状況にいる利用者がどんなことを知りたいかを考え、その利用者に対し、医療・健康情報サービスとしてどのような資料を提供したらよいかを現物を見ながら検討する。これを通じて、1)利用者のニーズの多様性と 2)本の種類の多様性をあらためて理解し、サービスに役立つ本とはどのようなものかを考える。

\*検討対象とする病気

・胃がん ・乳がん

#### 各チームでの検討事項と作業の流れ

<7-8分 (1人1分)>

##### 1. 自己紹介

<2-4: 20分>

##### 2. 胃がん・乳がんについて情報をさがそうとする利用者は、例えば以下のような状況にいると考えられる。このチームで検討する状況を選ぶ。

- (ア) 身体の特定期所の具合が悪いので病院に行こうか迷っている
- (イ) 検診を受けて、特定がんの疑いがあると言われた
- (ウ) 検査の結果、特定がんと診断された
- (エ) 特定がんの特定治療法を主治医から勧められた
- (オ) 再発している可能性が高いといわれた
- (カ) 退院が間近に迫っている
- (キ) 衝撃が大きく、心が落ち着かない
- (ク) その他

##### 3. チームで決めた、特定の状況にいる利用者が知りたいのはどんなことかを検討する

- \* 上記1のそれぞれの状況にいる人が知りたいと思われること、もしくは知ることによって少し楽になれることはどのようなことかを考える

4. 想定した利用者にどんな情報を提供したらいいか、またどんな点に考慮して本を選ばばいいかを検討し、チームのなかで担当する内容やレベルなどの分担を決めてリストから候補となる本を選んで現物を見に行く

<5-7: 20分>

5. 実際に本を手にとり、4で考えた点を考慮しながら本を選ぶ
6. メンバーが選んだ本（または本から得たこと）を持ち寄り、3~5冊の本を組み合わせる

\* 選ぶ本の組み合わせは、利用者のレベルの違いや知りたいと想定される内容の幅などとの関係で自由に考えてもらう。たとえば、本人／家族、リテラシーのレベル、病気の深刻さ、病歴等の違いによってどの本を提示すべきかを考える

<10分>

7. 発表内容をまとめる。以下の2項目（1と2）を3分で発表できるようにする
  - 1) 胃がん／乳がんに関わる状況にいるどのような利用者がどのようなことを知りたいと想定したか
  - 2) 想定した利用者に提供する本として選んだ3~5冊のそれぞれについて、選んだ理由
8. 発表する本が決まったらその本をリストに示して池谷（コーディネーター）まで知らせ、本を1箇所を集める
9. 発表（各チーム3分）  
発表者1名、その都度該当する本を掲げて見せる役割の人が1名
10. まとめ（池谷：6分）